

序 文

本道は我が国有数の食糧供給基地として位置づけられており、近年冷災害による大きい被害を受けているものの農業生産は着実に進展を示しています。しかし一方に於て稲作では減反の大幅強化、品質格差の導入、酪農にあっては牛乳の余剰ということで計画生産を余儀なくされ、また畑作、園芸にあっても生産の不安定性を内包しており、更に最近では貿易摩擦から一時休戦とはいえ農畜産物の輸入自由化を迫られるなど、北海道農業をめぐる諸情勢は内外ともに厳しいものがあります。

本道農業が21世紀に向けて生き残り、更に一層発展し自立安定化をはかるためには今こそその農業体質を点検し、将来に向っての体質改善強化を図らなければなりません。このような情勢のなかで、生産者農家はもちろん、農業団体もこれが打開策として、技術革新へ期待するところ極めて大きなものがあります。

これらの要請に応えるため、本道農業の基幹である稲作、畑作、園芸、畜産・草地飼料作の4部門について、各専門分野の研究者が、それぞれの現状の解析と今後の発展方向を展望して技術的諸問題を摘出し、また将来に対する技術的対応の具体的見通しについて慎重に検討を重ねてここに本書として作成したものであります。

本書が本道農業の将来計画あるいは営農基本計画の策定などの技術的指針として利活用されれば誠に幸甚であります。

昭和57年9月 日

北海道立中央農業試験場長 中山利彦